

## 平成三十一年度学位記授与式式辞

平成三十一年三月十六日（土）  
アイザック小杉文化ホール ラポール

本日、山崎副知事をはじめ多くのご来賓の皆様をお迎えし、平成三十一年度富山県立大学工学部・大学院工学研究科の学位記授与式を挙行できますことは、誠に喜びに堪えません。これも、ご来賓の皆様をはじめこれまで本学の教育・研究を支えてくださった多くの関係の皆様のご支援、ご尽力の賜であり、教職員を代表し、心から御礼を申し上げます。

そして、今日の佳き日を迎えられた工学部・大学院、計298名の卒業生・修了生の皆さん、本当におめでとうございます。また、ご家族の皆様には、お喜びも一入のことと存じます。

さて、皆さんは本学在学中に、多くの研鑽を積み、講義や実習、あるいは学位論文研究に取り組み、また、友人や教職員との交わりを通して、専門知識のみならず、物事を見通す目、考える力、専門分野において問題を捉え解決する手法、また、コミュニケーション力や、自己学習力など、エンジニア(engineer) やリサーチャー(researcher)として、必要な能力に加え、人生・社会を生き抜く上で大切な様々な「力(ability)」を習得してきたと思います。

本学は、皆さんの在学中に、県内産業への人材供給と若者の定着に貢献し、一層魅力ある大学となるよう、学科の新設や名称の変更、定員の拡充を行ってきました。具体的には工学部では全国初となる医薬品工学科の新設や、電子・情報工学科、環境・社会基盤工学科さらに知能ロボット工学科への名称変更とともに全体で100名の定員増を行いました。

こうした定員増に対応するため、新校舎を建設しており、平成32年4月からの供用開始を予定しています。

また、この4月からは、看護学部が開設され、富山県立大学は地域の知の拠点として、ますます発展していきます。

さて、皆さんのなかには、これから社会に出て活躍される方、また大学院に進んで、さらに勉学を深めようとする方がおられます。皆さんは、これから、難しい仕事や難解な研究テーマなど、自分の力だけではとても解決できそうにない、いわゆる「壁」と言われるものに遭遇すると思います。その「壁」は、仕事に限らず、人間関係の壁、技術の壁、研究の壁など、様々な場面で待ち受けています。

ここで、私から、皆さんに申し上げたいことが二つあります。

一つは、「目の前の壁から絶対に逃げるな」ということです。実はこの話は以前にもお話をさせてもらっています。ここでは少し補足をさせていただきます。

仕事の壁と言っても、それが挑戦的な良い未来が想像できる壁だと、人は難しいのは覚悟のうえで積極的に壁に向かいます。

ところが、いやな壁があります。それはスランプによる壁です。例えば、研究などは成果が出るのに10年かかります。30年かかるものもあります。その間が順調であればいいのですが、そのようなことはまずありません。どんよりのとした憂鬱な気分のみまわれます。これがスランプの壁です。

「待っていれば、そんな問題は時間が解決するだろう」とか、「誰かが代わってやってくれるだろう」などと考えるはいけません。「これはスランプの壁だ」と思ったら、とにかく、一息入れてみてください。冷静になって考えれば、その壁こそが絶好のチャレンジの機会かもしれません。あるいは人間性を高める機会かもしれません。また、極めて貴重な研究シーズかもしれません。まずは、冷静になって、考えて、考えて、考えぬいてみてください。その時、キャンパスでの同級生との会話、講義や研究室での先生や先輩とのやりとり、何度も読み直した教科書や参考書など、本学で経験したいろいろなことが次々と頭に浮かんでくると思います。それらのなかに必ず壁を乗り越えるヒントがあります。そして、どんな小さな壁でも努力して乗り越えていく時、さらに一段階飛躍があると思います。皆さんには、こういう、壁を乗り越えて、やり抜くという経験を重ねてほしいのです。

私は、本学において、そのための教育をし、皆さんもそれに応えてくれたと思っています。皆さんには、やり抜く力が備わっているのです。自信を持ってください。

もう一つは、「勇気(courage)と好奇心 (curiosity)」を常に持って欲しいということです。

これからは自然環境と調和した持続可能な社会、安全で豊かな社会を実現していくことが求められています。このためには、皆さんのような、新しい技術の創造に熱意を持った若いエンジニア(engineer)やリサーチャー(researcher)の力が必要となります。

皆さんは、本学において、「チャレンジする勇気」と「失敗を恐れない勇気」、そして「貪欲な好奇心」を学んだことと思います。この「勇気」と「好奇心」が皆さんの原点になるのです。

今日、卒業・修了される皆さんにとって、非常に厳しい言い方に聞こえるかもしれませんが、皆さんが四年乃至六年間、博士後期課程ですと九年間の在学期間で学んだ知識は、数年のうちに時代遅れになってしまう可能性もあります。社会の第一線で活躍し続けて行くためには、本学キャンパスを離れた後も、絶

えず学び続ける必要があります。そしてそれは自らが大学で選んだ研究分野とは異なるものかもしれません。皆さんは、「チャレンジする勇気」と「失敗を恐れない勇気」、そして「貪欲な好奇心」という知識では得られない大切なものを身につけています。私は、このことが卒業後も学び続ける原動力になるものと信じています。

もし、迷ったり悩んだりしたら、「勇気」と「好奇心」という原点を思い出してください。そして、気軽に本学に立ち寄ってみてください。進化し続ける研究室を目の当たりにすれば、「勇気」と「好奇心」を、必ずや思い出さずです。私たちはいつでも歓迎します。

また、大学院に進学する皆さんには、国際性を備えることにも努力して欲しいと思います。現代の企業は県内、県外の別や、規模の大小を問わずグローバルな視点抜きには活動できません。国際性を有する人材への期待は今後ますます高まってまいります。

このため、私は、研究成果を出した大学院生については、可能な限り、国際学会に参加させ、英語で発表する機会を与えるよう、全教員にお願いしています。国際化を深めるチャンスです。皆さんには、このような絶好の機会を逃さないようにしていただきたいと思います。

皆さんが、目の前の壁から逃げることなく、何事にもチャレンジする勇気、失敗を恐れない勇気、そして貪欲な好奇心を持って、これからの仕事、勉学に取り組まれ、社会に貢献する立派なエンジニア（engineer）やリサーチャー（researcher）として、大きく、大きく成長されますよう心から祈念し、私の式辞といたします。

平成三十一年三月十六日

富山県立大学 学長 石塚 勝